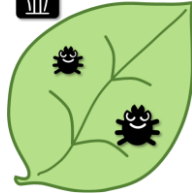
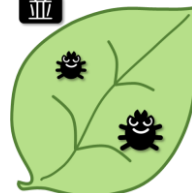
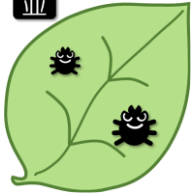
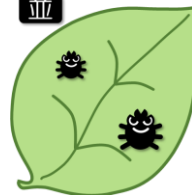


令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第7号（果樹）

令和7年8月7日発表（対象期間：令和7年8月7日～9月中旬）

1-（1）		かんきつ病害虫の現況と予報（概要）		
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項	
かいよう病	やや少 	やや少 	●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。	
黒点病	やや少 	やや少 	●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。	
ミカンハダニ	並 	並 	●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ●8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。	
ミカンサビダニ	並 	並 	●被害を確認してからの防除では遅いため、8月の基幹防除を徹底しましょう。 ●特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意します。	
ナシマルカイガラムシ	やや少 	やや少 	●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月上中旬までに防除を行いましょう。	
ヤノネカイガラムシ	並 発生なし 	並 	●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月中下旬までに防除を行いましょう。	
イセリアカイガラムシ				

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」：1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」：2～3番目と同程度
- 「並」：4～7番目と同程度
- 「やや少」：8～9番目と同程度
- 「少」：10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病		現況	やや少	予報	やや少
予報の根拠		●発病果率は、レモンで1.1%（平年2.4%）、ネーブルで0.8%（平年0.9%）であり、全体では1.1%（平年2.4%）と平年よりやや少ない発生でした（－）。			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因		●発生地点率は、レモンで41.7%（平年45.4%）、ネーブルで16.7%（平年28.1%）であり、全体では36.7%（平年41.9%）と平年よりやや少ない結果でした（－）。			
		●向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%です（±）。			

【防除上の注意事項】

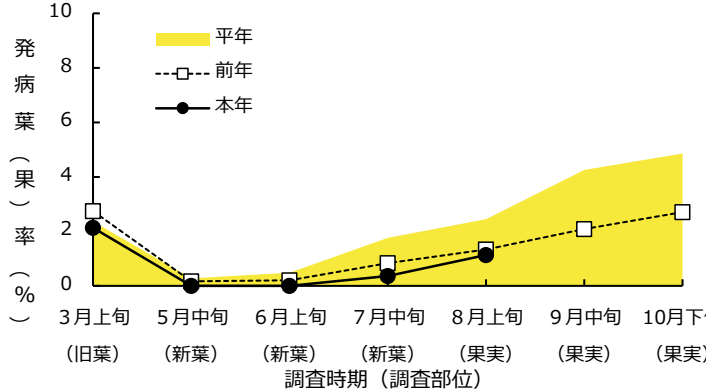
- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤（コサイドなど）の散布を行う際には、クレフノン（希釈倍数:200倍）を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。

罹病したレモン果実

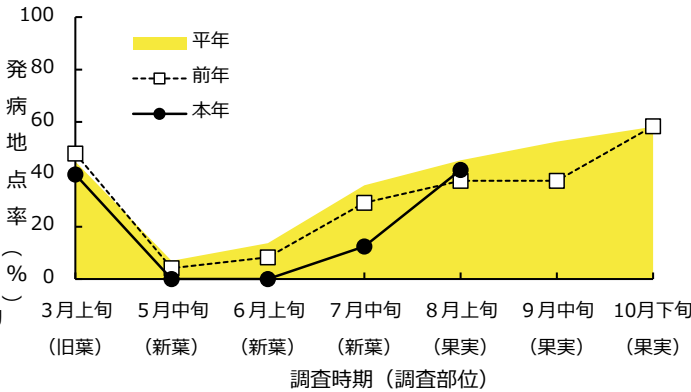


【巡回調査データ】

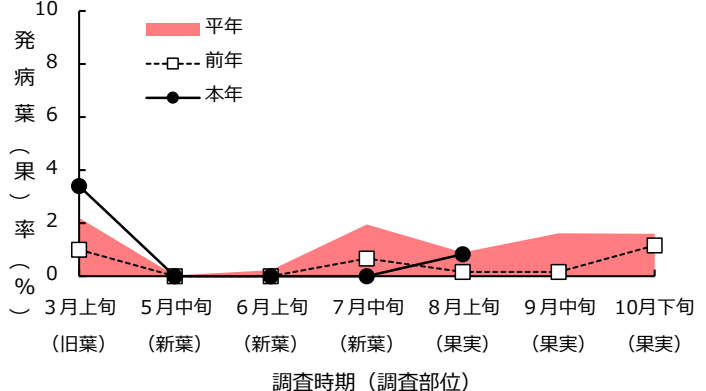
かいよう病（レモン） 発病葉（果）率（県全域）



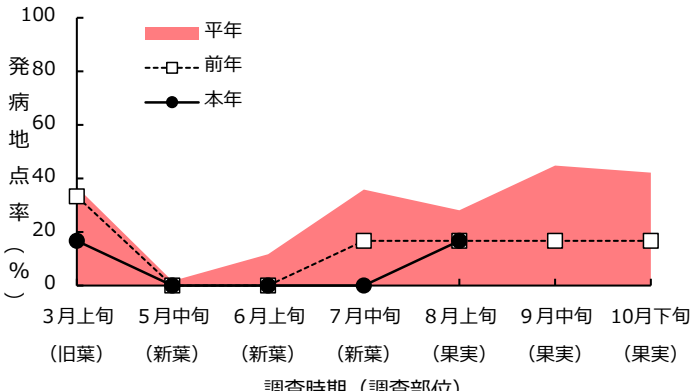
かいよう病（レモン） 発病地点率（県全域24地点）



かいよう病（ネーブル） 発病葉（果）率（県全域）



かいよう病（ネーブル） 発病地点率（県全域6地点）

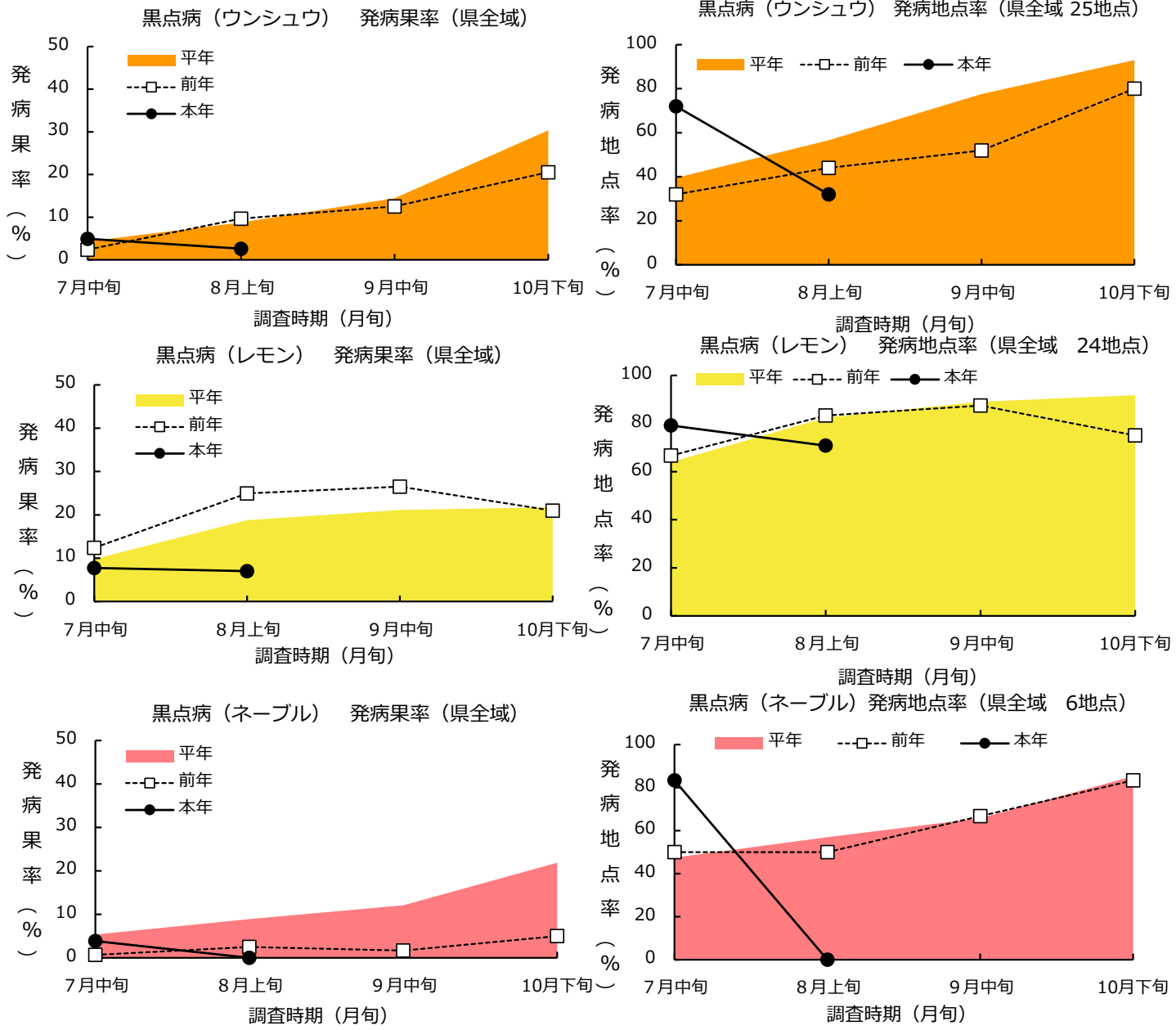


②黒点病		現況	やや少	予報	やや少
予報の根拠		●発病果率は、ウンシュウでは2.6%（平年8.8%）、レモンでは7.0%（平年18.8%）、ネーブルでは0%（平年8.9%）と平年よりやや少ない発生でした（－）。 ●発生地点率は、ウンシュウで32.0%（平年56.6%）、レモンで70.8%（平年82.5%）、ネーブルで0%（平年56.9%）と平年よりやや少ない結果でした（－）。 ●向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%です（±）。			
（＋）：多発要因 （±）：平年並 （－）：少発要因					

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

【巡回調査データ】

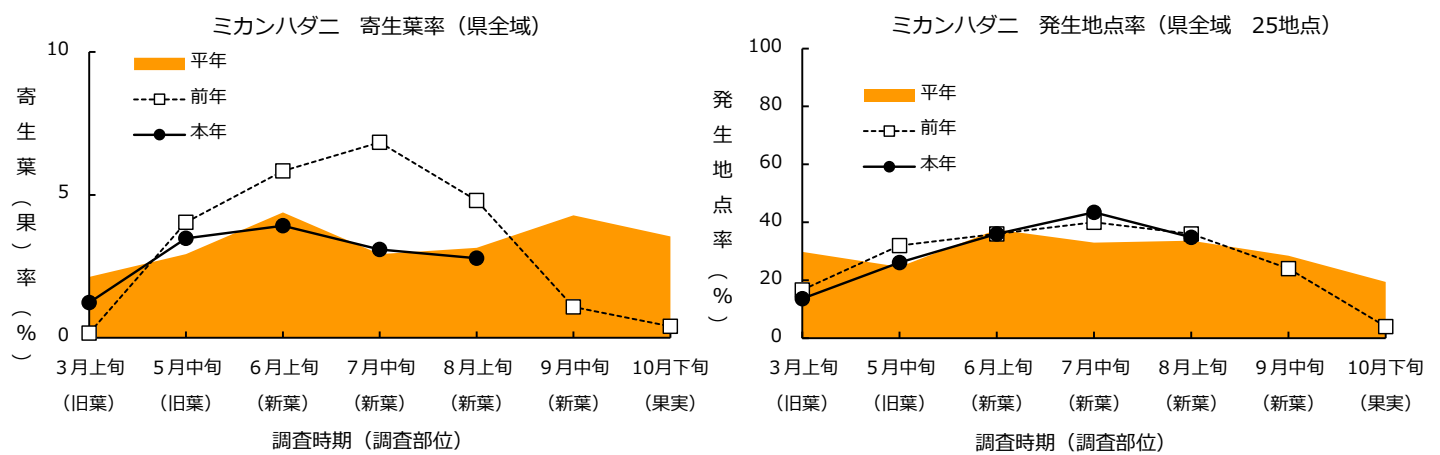


③ミカンハダニ	現況	並	予報	並
---------	----	---	----	---

予報の根拠	●ミカンの新葉における寄生葉率は2.8%（平年3.1%）、発生地点率は34.8%（平年33.7%）といずれも平年並でした。
(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因	●向こう1か月の降水量は、平年並の確率が40%です（±）。

- 【防除上の注意事項】
- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
 - 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。
 - 8月以降に発生すると、果実品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。

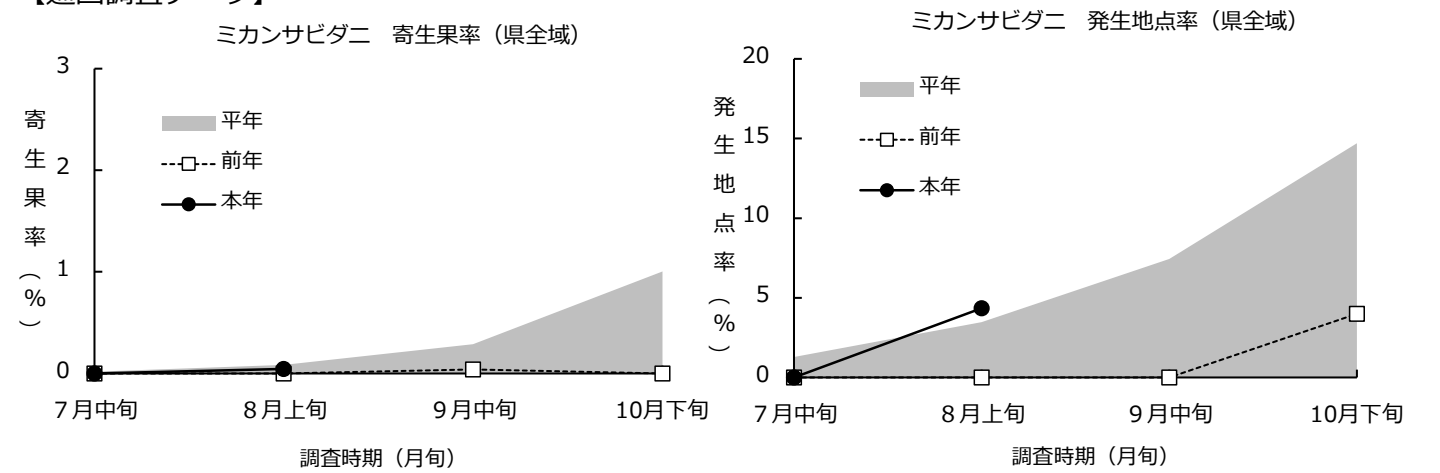
【巡回調査データ】



④ミカンサビダニ		現況	並	予報	並
予報の根拠		●巡回調査では、1地点で発生が確認されました。			
(+) :多発要因 (±) :平年並 (-) :少発要因		●向こう1か月の降水量は、平年並の確率が40%です（±）。			

- 【防除上の注意事項】
- 被害を確認してからの防除では遅いため、8月の基幹防除を徹底しましょう。
 - 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】



①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

やや少

予報

やや少

予報の根拠

(+) :多発要因
(±) :平年並
(-) :少発要因

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、7月第6半旬の時点で、各地で少～並の結果となっています。

※10月末までフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開するので、防除対策の参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1半旬～7月第6半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
庄原市高野町	27.0	やや少	449.9	1423.0	32.8
庄原市東城町	20.0	やや少	197.4	565.7	39.6
世羅郡世羅町1	63.8	少	320.2	594.3	202.7
東広島市安芸津町	31.8	少	219.9	366.0	157.3
福山市神辺町	38.0	並	263.8	649.3	98.6
呉市蒲刈町	26.6	並	219.2	692.8	16.2
三次市作木町※4	50.9	-	-	-	-
山県郡北広島町※4	1.0	-	-	-	-
三原市大和町※4	16.8	-	-	-	-
世羅郡世羅町2※4	220.3	-	-	-	-
尾道市瀬戸田町※4	42.6	-	-	-	-

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（令和2、4、6年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成26年以降で、令和2、4、6年を除いた年の平均値を示す

※4 令和7年からの調査開始のため、本年の誘殺数のみ記載する

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害



チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサングジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●第5世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、8月15日から17日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**

※表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第5世代	第6世代
平年より高い（+1℃）	8月15日	9月1日
平年並	8月16日	9月3日
平年より低い（-1℃）	8月17日	9月5日

※生口島アメダスデータに基づく

(広島地方気象台 7月31日発表、8月2日から9月1日までの天候見通し)

- 向こう1 か月は気温の高い状態が続く見込みです。
- 向こう1 か月の平均気温は高い確率が70%です。降水量は平年並の確率が40%、日照時間は多いまたは平年並の確率がともに40%です(図1)。
- 週別の気温は、高い確率が1週目は80%、2週目は50%、3～4週目は60%です(図2)。

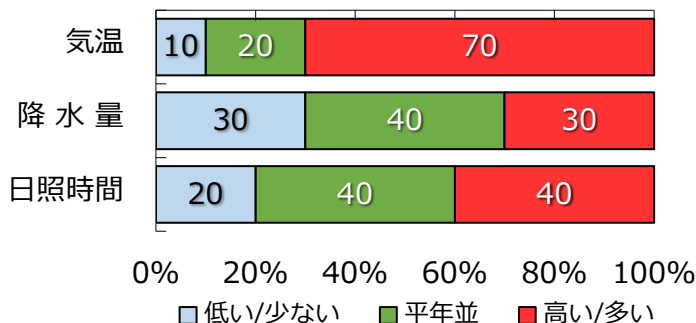


図1 向こう1 か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

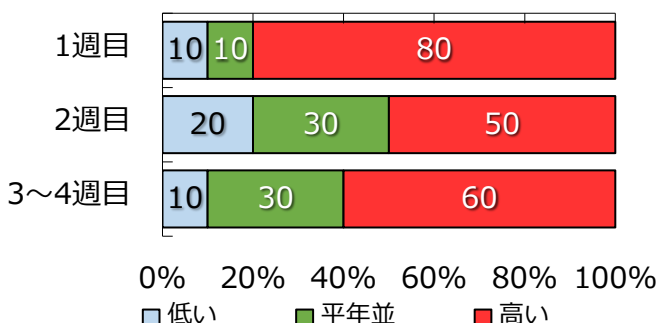


図2 向こう1 か月の気温経過の各階級の確率 (%)

●広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底に取り組んでいます。

●令和7年度の農薬危害防止講習会は、全日程を終了しました。多数のご参加ありがとうございました。なお、8月31日までオンデマンド配信を行っております(申込締切：8月25日)。下記リンクを参照してください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

[農薬危害防止運動の実施について | 広島県](#)

●PCでアクセス

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和7年9月中旬ごろです。